



なん で や ね ん

発行責任者 倉橋 忠



No.17

「課題作文」の評価と採点基準についての解説

社会的思考力・判断力を高め、表現力を培う

1 なぜ、作文なのか

ここで、感想文と「課題作文」(定期試験に出題した作文のこと)がどのように違うのか説明しておきましょう。

「課題作文」で求めている「説明文」は、いわゆる感想文ではありません。

感想は主観的でその人の人格でもあり、どのような感想を抱くかは本来的に個人の自由です。ですから、個人の感想そのものは、評価も採点も出来ません。

しかし、一定の課題に対して、社会科的な思考や判断を通して、合理的に公正な結論を導き出すことができるかどうかは、客観的に評価されるべき学力です。

そもそも、社会科学習は「社会的思考力・判断力・表現力を身につけること」を目標にしているからです。

難しいですが、少し詳しく説明します。社会科の課題では、結論を導き出すためには、多様な(色んな)考え方を知った上で、さらに、様々な場面のことも考えて、根拠に基づきながら、合理的(筋道を通して)で、公正(公平で不正がないこと)な判断をする必要があります。これらの過程(プロセス)を「社会的思考力・判断力」と言います。

そして、その一連の「過程」を説明することを「社会的表現力」と言います。

そのような、一定の前提と結論に至る過程を表現する方法として、定期試験で行う「課題作文」が最もふさわしいと、私(倉橋)は考えています。「課題作文」には「知識・理解」だけでなく、「社会的思考力・判断力・表現力」が総合的に現れると考えることができるからです。



2 どのように作文を採点(評価)するのか

どのような課題作文であっても、君たちの出した結論だけを取り上げて採点することとはしません。採点対象は、課題の前提になっていることと、君たちが導き出した

結論との間の過程(プロセス)に、「社会的思考や判断」が活用できているかどうかです。それは、作文の文章表現を読み取ることで採点(評価)することができます。

言い換えれば、社会科(歴史)の学習を通して獲得した知識や技能あるいは思考方法をどの程度活用できているのかを、課題作文で採点(評価)しているのです。作文のような作品の評価は、一般的に「ルーブリック」という評価基準の一覧表を使います。

しかし、「ルーブリック」は中学生には分かりづらいので、私は独自の評価方法を開発し採用しています。

私は作文の課題の内容に具体的に^{たいおう}対応させた「採点基準」を準備して客観的に採点(評価)対象を絞ります。さらに、それを「知識事項の説明と関係性の説明の評価基準」を利用して厳密に採点します。

【知識事項の説明と関係性の説明の評価基準】			
	0点	1点	2点
社会的事象の説明や、学んだ知識を活用すること。	知識内容が不正確であったり、正しい文脈で使用できない。	知識内容に曖昧な部分もあるがキーワードを概ね正しい文脈で活用できる。	キーワードを的確に使い、知識内容を正しい文脈で説明・活用できる。
複数の事象間の関係性を説明すること。	複数の事象間の関係性を論理的に説明できない。	複数の事象間の関係性について説明しているが曖昧な部分がある。	複数の事象間の因果関係などの関係性を論理的に的確な説明ができる。

※キーワード：社会的事象の特徴を表すために使う専門用語のこと。

ここで、「作文を評価する物差し」として、二つの「評価基準(ルーブリック)」をどのように使うのかを説明をしておきます。

作文の評価に当たっては、まず、個々の作文課題に対応させて具体的な「論点」を明確にした「採点基準」を使います。「採点基準」は代表的な論点を箇条書きにして示しています。作文が触れている内容を「論点」に当てはまるかどうかを判定して、採点対象を絞り込みます。作文全体のまとまりなども評価しますが、個々の文章の表現力や完成度(レベル)を、次の作業で判定します。

個々の文章の表現力や完成度(レベル)を判定するには、「知識事項の説明と関係性の説明の評価基準」を使います。判定基準は、その文章が社会科(歴史)の授業で学んだ専門用語(キーワード)を的確に使い説明文が書かれているかどうかです。説明文の得点は、キーワードの使い方や説明の仕方などのレベルに応じて、2点から0点までを決定します。また、複数の社会的事象(歴史的事象)の関係性を説明するような場合は、複数の事象間の説明が論理的に書かれているかどうか(筋道が通っているかどうか)で判定します。得点の最終的な決定は、その作文が触れている「論点」を加算法で採点(評価)した上で、合計し決定しています。

ですから、「課題作文」(定期試験に出題した作文のこと)の採点結果を確かめたりするときや、復習する際の参考になるのは、具体的に論点を示した「採点基準」が重要なポイントになるでしょう。

